



第2回

総合計画審議会

令和8年1月28日
会津若松市

▶ 会津若松市総合計画審議会について

これまでの策定経過・市民意見等の把握

次期総合計画素案等の審議

意見集約



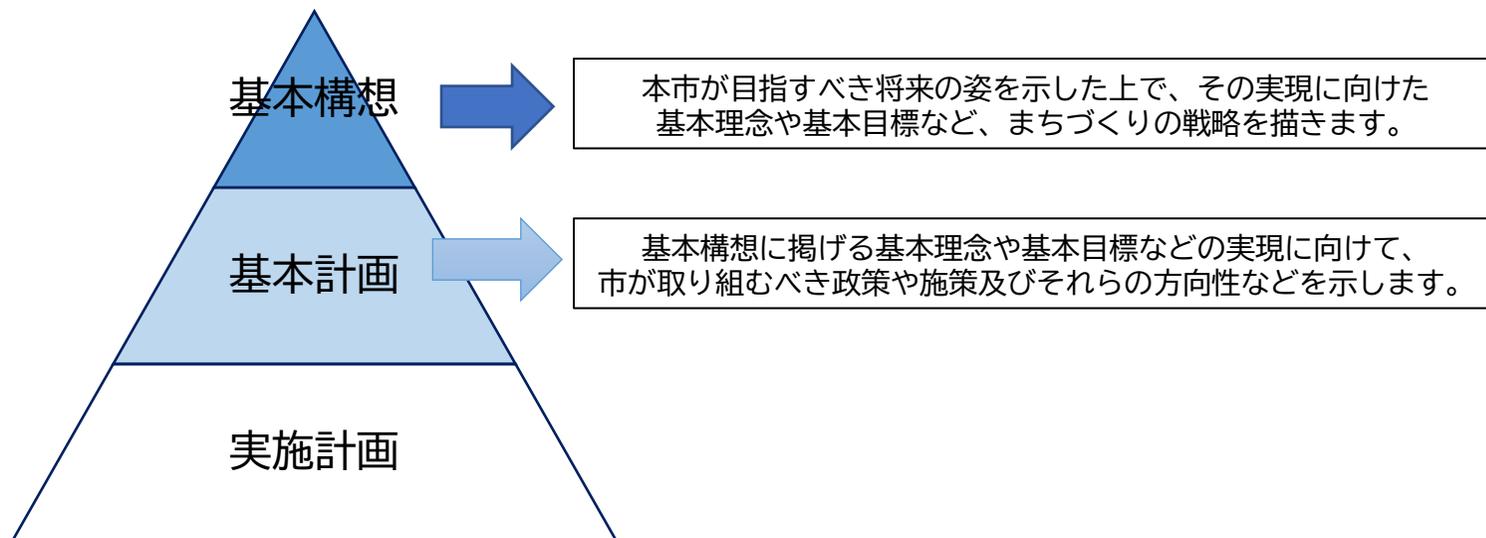
- ・ 諮問
- ・ 会津若松市総合計画審議会について
- ・ 会津若松市総合計画について
- ・ 次期総合計画策定に向けたこれまでの取組状況と今後の予定について

- ・ 次期総合計画の策定に向けた各種ワークショップの検討状況の報告について

- ・ 次期総合計画素案等(基本構想)の審議 など

- ・ 次期総合計画素案等の審議 など

- ・ パブリックコメント結果の報告
- ・ 答申内容の決定 など



(1) 次期総合計画策定に向けた 各種ワークショップ等の検討結果の報告

2026年1月28日

(作成者)

株式会社NTTデータ経営研究所

金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

1

新たな総合計画策定市民会議



1.新たな総合計画策定市民会議 実施概要

会津若松市に在住または通勤・通学している18歳以上の方によって、令和7年7月から令和8年1月まで全7回の日程で「目指すべき将来像」や「その実現に向けた方向性」について議論しました

#	日時	会場	テーマ	参加人数
第1回	2025.7.9(水)	スマートシティAiCT 交流棟	会議目的の共有 委員間の円滑なコミュニケーション促進	31名
第2回	2025.7.30(水)	市役所本庁舎1階 市民ホール	自身を知る会津若松の特性の共有	32名
第3回	2025.8.20(水)	市役所本庁舎1階 多目的スペース	住民ニーズを知る 行政が行う施策・事業を知る	32名
第4回	2025.10.1(水)	市役所本庁舎1階 市民ホール	会津若松の魅力・問題点の検証	24名
第5回	2025.10.22(水)	市役所本庁舎1階 市民ホール	会津若松の「目指すべき将来像」の検討	22名
第6回	2025.11.12(水)	市役所本庁舎1階 市民ホール	会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討	26名
第7回	2026.1.14(水)	市役所本庁舎1階 市民ホール	今後10年間のまちづくり協働に向けたスローガンの検討	22名

参加委員数(年代別・男女別内訳)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計	男性	女性
7名	8名	6名	6名	5名	4名	36名	24名	12名

1.新たな総合計画策定市民会議

第1回 会議目的の共有、委員間の円滑なコミュニケーション促進

委員相互の円滑なコミュニケーション促進とワークショップでの活発な検討に向けた環境づくりのため、ゲームを交えながら助け合いの機運醸成や相互理解の促進を実施し、5つの分科会を組成しました

分科会構成と検討テーマ

産業	<ul style="list-style-type: none"> 農業 林業 工業 	<ul style="list-style-type: none"> 商業 観光
福祉・保健	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療 地域福祉 障がい福祉 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉 子ども・子育て 健康づくり
教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育 学校教育 生涯学習 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ 伝統・文化
生活環境 基盤	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用 都市基盤 道路・交通ネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全 交通安全 消費者保護 防災
市政運営	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ 住環境 市民協働 	<ul style="list-style-type: none"> 行財政運営改革(DX含む) 人権・男女共同 シティプロモーション(移住定住)

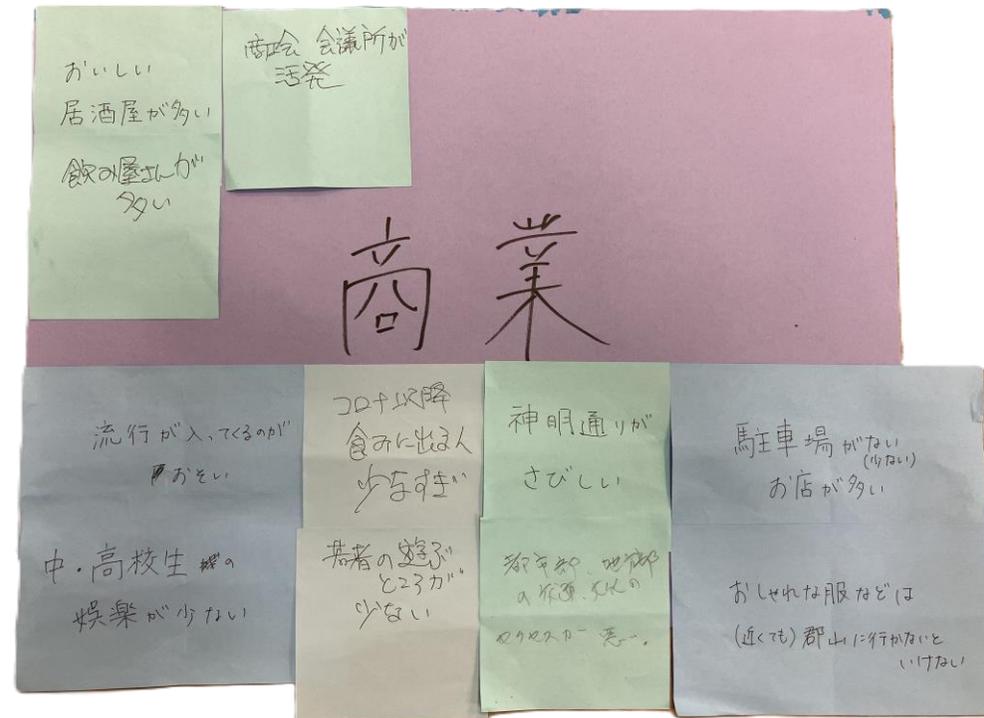


1.新たな総合計画策定市民会議 第2回 自身が知る会津若松の特性の共有

5つの分科会に分かれ、関連するテーマについて個々に感じている会津若松市の特性(魅力や問題点)を相互に共有し合いました

本市の魅力・問題点の検証プロセス

- 1 各分科会で、検討テーマに関する「魅力」や「問題点」をメモに記載(無記名)
- 2 すべてのメモを箱に投函
- 3 箱の中のメモを1枚ずつ取り出し、メモの内容を読み上げる(だれの意見か特定されない工夫)



1.新たな総合計画策定市民会議

第3回 住民ニーズを知る、行政が行う施策・事業を知る

ワールドカフェ方式にて委員と市職員との対話を行いました。5つの分野ごとにグループを編成し、委員が関心のあるグループへ自由に移動して対話できる形式としました

グループ構成と対話テーマ

グループ1
未来につなぐひとづくり

- 子育て・教育について
- 生涯学習と社会参画について

グループ2
強みを活かすしごとづくり

- 産業・しごと・雇用について
- 賑わいと魅力の創出について

グループ3
安心、共生のくらしづくり

- 医療・福祉・健康について
- 安心、共生のくらしづくり

グループ4
安全、快適な基盤づくり

- 災害等の危機への備え
- 都市環境の維持について

グループ5
豊かで魅力ある地域づくり

- 地域活力の創造・再生
- 行財政運営について
- 豊かで魅力ある地域づくり



1.新たな総合計画策定市民会議 第4回 会津若松の魅力・問題点の検証(1/3)

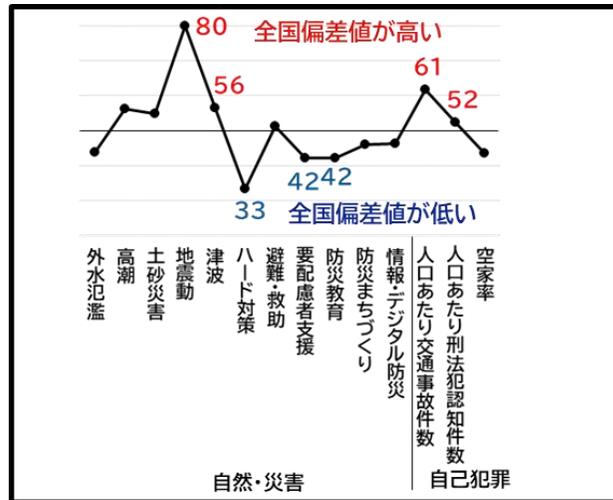
第2回市民会議のなかで出し合った会津若松市の魅力・問題点について、「地域幸福度指標(Well-Being指標)」と「会津若松市 市民意識調査」を活用して検証・議論しました

本市の魅力・問題点の検証プロセス

STEP1

統計データでまちの特徴(強み・弱み)を調べる

「地域幸福度指標」の客観指標と主観指標の差(ギャップ)にも着目しました



STEP2

まちの魅力や問題点を考える

地震動や津波の危険度が低いですね。交通事故件数や刑法犯罪の発生率も全国と比較すると低い…安心・安全の生活環境が整っているのは強みなのでは？



ハード対策(公共施設の耐震化)は全国と比べて偏差値が低いですね…要配慮者支援や防災教育などは問題があるかもしれない…

STEP3

実態を確認して検証する

「地域幸福度指標(客観指標/主観指標)」と「市民意識調査(満足度)」を比較して検証しました



1.新たな総合計画策定市民会議

第4回 会津若松の魅力・問題点の検証(2/3)

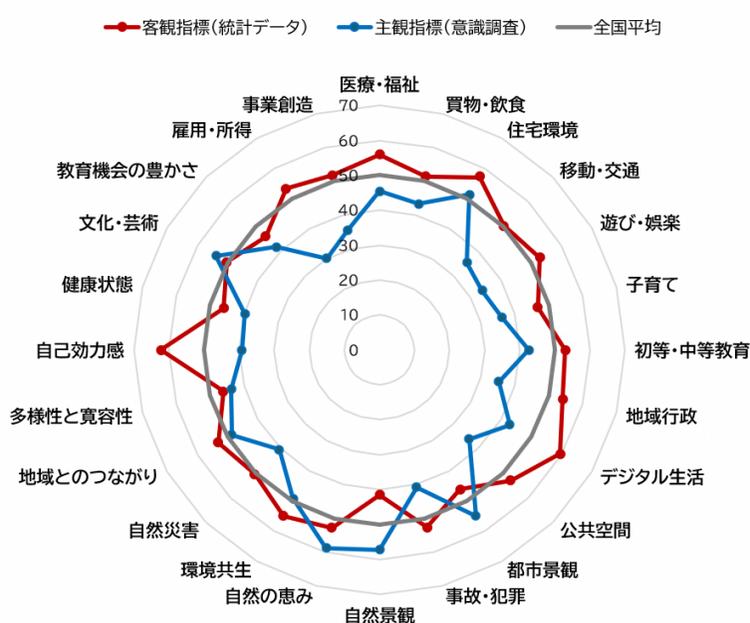
地域幸福度指標(Well-Being指標)は、会津若松市の「暮らしやすさ」を全国と比較したり、客観指標(統計データ)と主観指標(意識調査)のギャップに着目するなど魅力・問題点の検証に活用しました

地域幸福度指標(Well-Being指標)

「新たな総合計画策定市民会議」
第4回 会津若松の魅力・問題点の検証

地域幸福度指標における本市の暮らしやすさの客観指標(統計データ)と主観指標(意識調査)を確認しましょう

① 地域幸福度(Well-Being)指標



評価指標	客観指標(統計データ)	主観指標(意識調査)	差分(客観対比)
医療・福祉	56.0	45.4	▲ 10.6
買物・飲食	51.4	43.3	▲ 8.1
住宅環境	57.3	51.4	▲ 5.9
移動・交通	50.2	35.3	▲ 14.9
遊び・娯楽	52.9	33.9	▲ 19.0
子育て	46.8	36.1	▲ 10.7
初等・中等教育	53.1	42.6	▲ 10.5
地域行政	54.2	35.2	▲ 19.0
デジタル生活	59.6	43.0	▲ 16.6
公共空間	52.9	36.1	▲ 16.8
都市景観	46.1	55.0	● 8.9
事故・犯罪	52.6	40.7	▲ 11.9
自然景観	41.6	57.3	● 15.7
自然の恵み	52.8	58.8	● 6.0
環境共生	54.9	49.2	▲ 5.7
自然災害	50.3	40.5	▲ 9.8
地域とのつながり	53.1	48.7	▲ 4.4
多様性と寛容性	46.1	43.8	▲ 2.3
自己効力感	62.3	39.3	▲ 23.0
健康状態	46.0	39.8	▲ 6.2
文化・芸術	50.3	53.8	● 3.5
教育機会の豊かさ	46.0	41.6	▲ 4.4
雇用・所得	53.3	30.2	▲ 23.1
事業創造	51.8	35.4	▲ 16.4

出典: 地域幸福度Well-Being指標(デジタル庁)



1.新たな総合計画策定市民会議

第4回 会津若松の魅力・問題点の検証(3/3)

会津若松市の魅力・問題点(一部抜粋)

	魅力(強み)	問題点(弱み)
産業	<ul style="list-style-type: none"> 水資源や生物資源等の自然資源が充実 伝統産業や歴史的資源が充実 地元の食材を活かした飲食店が多数存在 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統産業を繁盛させる取り組みが不足 中心市街地の賑わいが不足 観光資源への発信力が弱い
福祉・保健	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関数、診療科や救急等の医療体制が充実 市主催行事等における手話通訳等の環境が充足 保育需要に対応した体制整備(待機児童ゼロ) 	<ul style="list-style-type: none"> 一部地域における医療機関の不足 高齢者と子どものふれあいの場や機会が不足 子どもの遊び場、放課後の居場所等が不足
教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> IT教育機会の充実 武道を中心としたスポーツや部活動が充実 地域に根差した歴史教育の活動や場所が充実 	<ul style="list-style-type: none"> IT教育・研究の取り組みの地域への還元が不足 生涯学習に関する取り組みの情報発信不足 伝統・文化の発信力の不足
生活環境基盤	<ul style="list-style-type: none"> 強固な地盤等による災害が少なさ デジタル防災の浸透や防災意識の高さ 乗り合いバス等の公共交通の充実 市民によって順守された適切なごみ収集 	<ul style="list-style-type: none"> 道路等の整備不足による交通渋滞の常態化 冬季の除雪システム機能の不足 観光等に注力するためのインフラ整備の不足 学校等公共施設の遊休不動産の活用不足・遅れ
市政運営	<ul style="list-style-type: none"> 田舎特有の古き良き地域コミュニティ文化が存続 市民会議等、市民参加型のイベントが充実 オンライン対応可能な行政手続き等が充実 	<ul style="list-style-type: none"> 世代間の交流が不足 市民の市政への興味関心不足 古い考えや体質が残存(人権や男女共同)

1.新たな総合計画策定市民会議 第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

これまでの検討で認識できた「地域特性」や「問題意識」から、「目指すべき将来像」を分科会ごとに検討しました

目指すべき将来像の検討イメージ

地域特性・問題意識

(例) 農業分野

- 農業の担い手が高齢化している
- 若い人や女性にとって、農作業への抵抗感があり就農が進まない
- そもそも、収益化が図られていない（儲かる農業への転換）
- 地産地消やPRに取り組んでいるが、特産品の全国的な知名度が低い

目指すべき将来像

- 男性も女性も高齢者も農業の負担が軽くなり、全員参画が実現できるスマート農業のまち



- あいづ産の農産物の全国ブランド化による高付加価値化・高収益化の農業振興



1.新たな総合計画策定市民会議

第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

目指すべき将来像(産業)

テーマ	特徴	まちの将来像
農業	<ul style="list-style-type: none"> ● 豊富な水資源 ● 作物を育てるのに適した気候環境 	<p>少子高齢化対策に最適なまち</p> <p>- 農業分野における雇用環境が整った永く住み続けるのに最適なまち</p>
商業／観光 (地域経済・事業創造)	<ul style="list-style-type: none"> ● 特産品や地域ブランドの販路が限定的 ● 行政の支援が不足 	<p>失敗を認める社会</p> <p>- 成功も、失敗も許容し、チャレンジを推奨するまち</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津若松市、及び会津エリアの観光名所、産業品がそれぞれ独立しており、まとまりがない ● 域外へのPR・販売・ブランディングが不足 	<p>域外の人々が憧れる産業復興のまち</p> <p>- 会津ブランドの域外発信による経済循環の拡大</p>
地域雇用 (Uターン・Jターン)	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津若松で子育てを行うメリットが少ない ● 雇用等の発信が不足 	<p>会津若松に住みたいと思い、実際に住んだ際に満足した生活ができるまち</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津若松の雇用先・家計状況等の情報が不足 ● 会津若松での就職をネガティブに感じる人が多い 	<p>選択肢が可視化され、若者自身が自信を持って魅力ある職場に就職できるまち</p>

1.新たな総合計画策定市民会議

第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

目指すべき将来像(福祉・保健)

テーマ	特徴	まちの将来像
地域医療	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域によっては病院等が少ない ● 地域によっては公共交通が不足している 	<p>様々な年齢の方が、地域に関わらず、安心して医療を受けられるまち</p>
子ども・子育て ／高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの居場所が不足 ● 子どもと高齢者とのふれあいの機会が不足 	<p>地域ぐるみで交流できる活動が増え、「子ども」も「高齢者」も元気なまち</p>
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、こども園の高い整備率 ● 待機児童はほぼゼロ ● 少子化および若年層の流出が進行 	<p>子どもを産み、育てたいと思えるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 地域の楽しさ・自然・文化を感じ、安心して子育てできるまち - 地元で働き、育て、暮らせる若年層が定着する選ばれるまち
障がい福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部の「特別支援学校」が市内にはない ● 障がい者の活躍の場、働く場所などが少ない 	<p>障がいの種類によらず、安心して社会に出ていけるまち</p>
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康を気にかける人とそうでない人の差が大きい ● 病気にならないための意識・取り組みが弱い 	<p>全員参加で「健幸」づくりに取り組むまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送ることができるまち
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校卒業後の進学先が少ないため若い世代が流出 ● 地域の高齢化が進んでいる 	<p>高齢化社会でも住みよい高齢者に優しいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 定年後のUターン先に選ばれるまち - 高齢者が利用しやすい公共交通

1.新たな総合計画策定市民会議

第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

目指すべき将来像(教育・文化)

テーマ	特徴	まちの将来像
<p>学校教育 (教育環境・学力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津市内小中学生には支援が必要な児童が約390名(R6) ● 会津若松市の特別支援学校があり、障がいをもった児童をサポートできる体制はあるが、支援級が未設置の中学校もある ● 親は子どもの進路選びに悩む 	<p>インクルーシブでだれもとりのこさない、充実した教育環境の実現</p>
<p>家庭教育 (イベント・施設の充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 客観的指標では、あいづっ子学力向上推進計画の取組など、教育環境は整っているが、全国学力評価では下から2～3番 ● 屋内施設が乏しい(県立病院跡地は2028年利用開始予定) ● 日曜・祝日に子どもと楽しめるイベントが季節により偏りがある 	<p>このまちで教育を受けさせたいと思われるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 偏差値55以上の学力アップを達成する - 転居した人が戻ってくることで、居住のサイクルが生まれる
<p>伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津のお土産、贈答品と言ったら工芸品 ● 歴史があるからこそ、変化させることができる 	<p>会津の工芸品と現代の融合</p>

1.新たな総合計画策定市民会議

第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

目指すべき将来像(生活環境基盤)

テーマ	特徴	まちの将来像
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通へのアクセスが良い ● 地域によっては公共交通が不足している 	「近くは歩く」という移動への意識改革ができるまち
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 雪害や水害、火災などの災害に対し、地域や町内会でのコミュニケーションが少ない 	子ども時代から、防災教育が浸透するまち
都市景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 街なかのにぎわいが失われている ● 市民間でのコミュニケーションが少ない 	賑わいとふれあいにあふれるまち - 人があふれた賑わいのまち

1.新たな総合計画策定市民会議

第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

目指すべき将来像(市政運営①)

テーマ	特徴	まちの将来像
<p>地域コミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代間の交流が少ない ● 地域内での連携の枠組みは整備されているものの、そうした取組の周知が少ない ● 本市出身の若者は高校卒業後、地元を離れ、戻ってくる者が少ない ● 若者が集まることのできる施設等が少ない 	<p>新しい地域コミュニティが創造された 若者主導のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 既存の地域コミュニティを破壊的創造し多世代間交流を図る - 若者が集まり、新しい事業が創造される土壌をつくる - 高齢者のリカレント教育等により労働生産人口を底上げする <p>誰もがやりたいことの実現に向けてつながり、 広がることのできるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 深化する空間(人が出会う場)・時間(時間を超えてつながる仕組み)・仲間(共に何かを創り出す仲間)をつくる
	<ul style="list-style-type: none"> ● 多世代間での交流ができるような施設の不足 ● 個人情報保護等の制限の中で人間関係が希薄化 ● 多方面でつながり助け合う必要性が高まる 	<p>自然に助け合えるまち</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津の人の良さを活かされる、教育・文化・福祉をつなぐ仕組みがない ● 想いが形になる「共育のまち」づくりが必要 	<p>学びと文化がめぐる「共育のまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> - 会津の人の温かさが仕組みへつながり・活かされ、世代や文化を越えて支えあうまち

1.新たな総合計画策定市民会議

第5回 会津若松の「目指すべき将来像」の検討

目指すべき将来像(市政運営②)

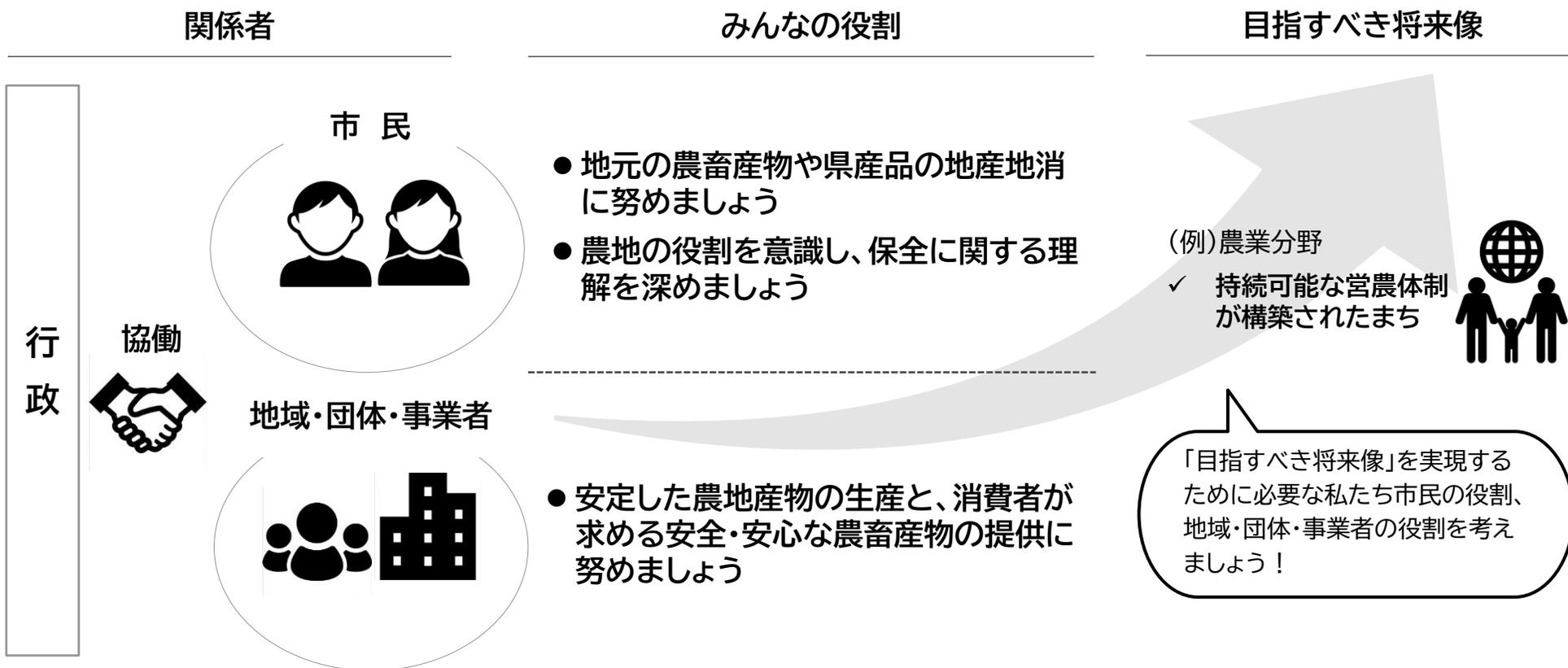
テーマ	特徴	まちの将来像
<p>シティプロモーション (移住定住)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 希望する進学先・就職先が少なく、若者が流出傾向 ● 空き家の活用が不十分 	<p>子育てしやすく、定住したくなるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 子どもが本気で遊べ、保護者の交流のきっかけになる施設が充実しているまち <p>多様な働き方・起業サポートが充実した移住定住しやすいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 起業や業務委託、空き家活用の補助金等だけでなく、支援・サポートが充実しているまち
<p>市民協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の取組が市民に上手く伝わっておらず、市民の市政への関心が薄い ● 市と市民の距離が離れているほか、市民間でも大人・若者・高齢者の距離が離れている ● 公共施設の利用者が限定的で、若者が利用していない 	<p>市と市民・市民と市民が近いまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - 公共施設・街中に若者から高齢者まで幅広く集まれるまち - 多世代が交流できる場が継続的に作られているまち <p>市と市民が手を取り合い 市民が「まちづくりの主体」のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> - AIを用いて市民の声を可視化し、より市民の想いに沿った行政提案型協働事業が行われているまち
<p>行財政運営改革(DX 含む)/ 市民協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 会津若松市の市政の始まりは福島県内でも早かった ● 現代ではスマートシティの取組で先取りしている 	<p>福島のリリーダー・会津若松</p> <ul style="list-style-type: none"> - 歴史的に時代の先取りをしてきた会津若松が先進的な取り組みを更に進めていく

1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

「目指すべき将来像」実現のため、市民、企業・団体などが行政とともに協力し合うための指針「みんなの役割」を検討しました

「みんなの役割」の検討イメージ



1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

アクションプラン(産業)

まちの将来像	アクションプラン	
	市民	地域・団体
減少していく農業者の数を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ● 辞める農家の情報を新規就農者に共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規就農者への情報を共有するための仕組みづくり
域外の人が憧れる産業復興のまち - 失敗を認める社会(まち)	<ul style="list-style-type: none"> ● 挑戦しようとする事業者を応援する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者が挑戦できる場所を常設でつくる <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業者が産業や地域経済の状況を入手し、活用できる仕組みをつくる <ul style="list-style-type: none"> - オープンデータ等の整備
若者の選択肢が可視化され、魅力ある職場に就職できるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で働く方々が周りの方に自身の仕事の話を楽しそうにする ● 中学、高校で地元企業について知る機会を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 就活情報サイトに地元企業の情報を掲載 <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域で暮らすにあたり、家賃や1ヶ月間の生活費用に関する情報を公開する
会津若松に住みたいと思い、実際に住んだ際に満足した生活ができるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の方が仕事にやりがいを感じ、仕事を通じて感じた楽しいことを知り合いに話す ● 職場に笑顔があふれ、コミュニケーションが頻繁に行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てする人への助成、助成に関する情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> - 市民が利用するスーパーやドラッグストアにポスターが設置されている等

1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

アクションプラン(福祉・保健)

まちの将来像	アクションプラン	
	市民	地域・団体
子どもを産み、育てたいと思えるまち (豊かな自然や文化にふれながら、親も子どもも笑顔で安心して暮らせる)	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て家庭に温かい見守り ● 自然や文化にふれる体験を子どもと一緒に楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい職場づくりや、親子で参加できる活動を広げ、地域全体で子どもを育てるまちを目指す
地域ぐるみで交流できる活動が増え、子どもも高齢者も元気なまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人が参加する活動に子どもを参加させる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 老若問わず参加できるイベント等を実施する
高齢者が元気な社会(まち) (こころの健康の増進)	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な高齢者に地域や住民と繋がりをもつための情報を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の役割として、子どもの見守りを義務化する
全員参加で「健幸」づくりに取り組むまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断を受ける ● 健康へのアンテナを高くする ● 大人も子供も高齢者も外へ出よう！ ● 「健幸アンバサダー養成講座」を受け、自分も周囲の人も健幸へと導く ● 健康へのおせっかいをする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市庁舎内で1日1回「会津若松市民体操」流して、市民も職員も体を動かすリフレッシュタイムとする(市内の各事務所や地域の運動会などにも普及させる) ● 市から配属された「スポーツ推進委員」という団体を活用して市民体操やニュースポーツに取り組む環境を整える

1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

アクションプラン(教育・文化)

まちの将来像	アクションプラン	
	市民	地域・団体
このまちで、教育を受けさせたいと思われるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭等で学習時間、空間、機会の確保 ● 興味・関心を育む活動の参加(外出・文化に触れる体験等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生や、主婦、高齢者などが子どもたちの学びを支える場所・機会を作る/選択肢を増やす
知・体・徳の向上 会津の教えによる徳をベースに 知・体の高い具体的数値目標を達成	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師だけでなく、専門能力のある市民との連携チーム・責任者(リーダー)を設ける ● 目標値の周知とトレースが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートシティの最大限活用 ● 大学・企業との連携
インクルーシブでだれもとりのこさな い、充実した教育環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいに関する講演会への参加 ● PTAなどで「インクルーシブ教育」を話題にする ● 「違いをあたりまえ」と感じさせる地域風土の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放課後14:55などに支援員や地域の学生が関わる ● 教員・支援員・学校向けの研修などを実施 ● 学校やHP、事務所などと連携し支援のノウハウを還元→教育と福祉の垣根を超える
文化を推進する拠点を増やす	—	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各地域の教育機関を通じて拠点数を増やす ● 商工会、農業団体、教育団体等を一本化し、文化促進への意識統一を図る
伝統を繋ぎ、文化を継承するまち (市民ひとりひとりの輝く光を観に 観光客が訪れるまち)	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼少期から地元の漆器・焼物を利用し、地域の食産物に触れる ● 習い事として伝統芸能を学び、日常に伝統・文化を溶け込ませる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民が伝統・文化を習い事して始める <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市の職員が率先して、伝統・文化を学ぶ

1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

アクションプラン(生活環境基盤)

まちの将来像	アクションプラン	
	市民	地域・団体
「近くは歩く」という移動への意識改革ができるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者が安全に歩行するための意識 <ul style="list-style-type: none"> - 歩行者の通行マナー厳守 - 車の運転マナーの厳守 ● 地域イベントに参加して歩く機会をつくる <ul style="list-style-type: none"> - 歩く習慣が健康にも繋がる ● 雪の日でもLUUPやUberなど新しい移動手段を楽しみながら活用する ● 高齢者や子どもの外出を地域で支え合う「助け合い交通文化」をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 渋滞回避のためのフレックスタイム勤務【行政】 ● 歩道整備、冬季の除雪 ● 地域イベントを開催する ● 地域イベントの周知や参加方法を知らせる ● 雪につよいモビリティを導入し、冬でも移動できる環境を整える ● 公共交通と新モビリティをつなぐ「地域型移動拠点」を運営する
賑わいとふれあいにあふれるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域イベントへの積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 【行政】 ● 市民に対するイベント広報強化(SNS活用) ● 無料の駐車場の整備
旧家や商家、小さな宿を活用した賑わいとふれあいの城下町	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家となっている建物の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民への告知 ● リノベーション等 ● 施設運営のサポート
市民が会津若松に誇りを持てるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● ものを大切にする ● 地域でゴミを見かけた際には、自分事と思い掃除をする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の景観を維持する観点で、既にある建物の見直しや今後の建築計画を検討する

1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

アクションプラン(市政運営①)

まちの将来像	アクションプラン	
	市民	地域・団体
市と市民・市民と市民が近いまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域イベントへ積極的に参加する姿勢の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域企業・団体・行政が手を組んで、地域の人が興味のあるイベントを企画し、交流の場を増やす
市と市民が手を取り合い、市民が「まちづくりの主体」のまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民は市や暮らしに対して思うことをつぶやきましょう ● 自分が役立てる事に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ● 団体・事業所は、市や暮らしに対して思うことをつぶやきましょう <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AI活用により、皆の意見を集約・表出する ● 市民・地域・団体の誰に取り組んでほしいか分類する <ul style="list-style-type: none"> - 市民・地域・団体の取組にポイント付与
会津若松をみんなの「あそび場」へ！ ふるさとをみんなでDIY	<ul style="list-style-type: none"> ● 市政モニターになろう ● まちの課題を「自分事」として考え、行動しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民のアイデアや挑戦を受け止め、支援・後押しする仕組みを整える ● 空き家等の地域資源を活かした、まちの「実験の場」を提供 <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル版「市長への提案ポスト」等で市民の声を見える化する
課題解決のための挑戦的な政策を実施できるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が推進する政策に対して非難しない 	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市の職員が挑戦していることを評価する仕組みをつくる

1.新たな総合計画策定市民会議

第6回 会津若松の「目指すべき将来像」の実現に向けたアクションプランの検討

アクションプラン(市政運営②)

まちの将来像	アクションプラン	
	市民	地域・団体
若者が主導する 新しい地域コミュニティの創造	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者が自由闊達に活動ができる・意見を言える空気づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 20代の会、30代の会、40代の会等のつながりの創出
世代に関係なく人と人のつながりを大切にするまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 周りに興味を持って、行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人が集まれる施設やイベント等のきっかけを作る
学びと文化がめぐる「共育」のまち (このまちで、教育を受けさせたいと思われ るまち)	<ul style="list-style-type: none"> ● “何もない街”は禁句！！ ● 街の真価を進化させる、一人一人が地元 の一番を見つけ発信する観光大使となる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての事業者・団体が所在地学区の学校と の接点を持つ(歴史や実績の“押し付け”で はなく、キラキラした夢と未来を語ろう) ● 自分たちが地域の教科書となる/作る
地域の人々が心通わせ、 未来を切り拓く原動力！！ (地域の人々がつながり心通わせるまち)	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代を問わずお互いの価値観を受け入れ 理解し合い、関係性を深めること 	<ul style="list-style-type: none"> ● 青年会議所の活用、社協の活用、イベント 運営で人々を巻き込んでいく ● 地域のリーダーを生み出す
学びと文化がめぐる「共育のまち」	<ul style="list-style-type: none"> ● 郷土品・アート・地域活動に参加し、世代や 分野を越えて学び合う ● 会津の人の温かさを形にする共育イベン ト・活動を自ら生み出す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育・文化・福祉をつなぐ組織を整え、想い が形になる環境を整える ● 学校・企業・NPOが協力し、地域ぐるみで 学びと文化を支える

1.新たな総合計画策定市民会議

第7回 今後10年間のまちづくり協働に向けたスローガンの検討

これまで検討した「まちの将来像」や「アクションプラン」をもとに、全員参加のまちづくりに向けたかけ声(スローガン)を検討して全体で発表しました

スローガン検討の進め方

- 1 「まちの将来像」や「アクションプラン」を振り返りながら、スローガンに取り入れたいキーワードを検討

<キーワードの例>

挑戦

繋がり

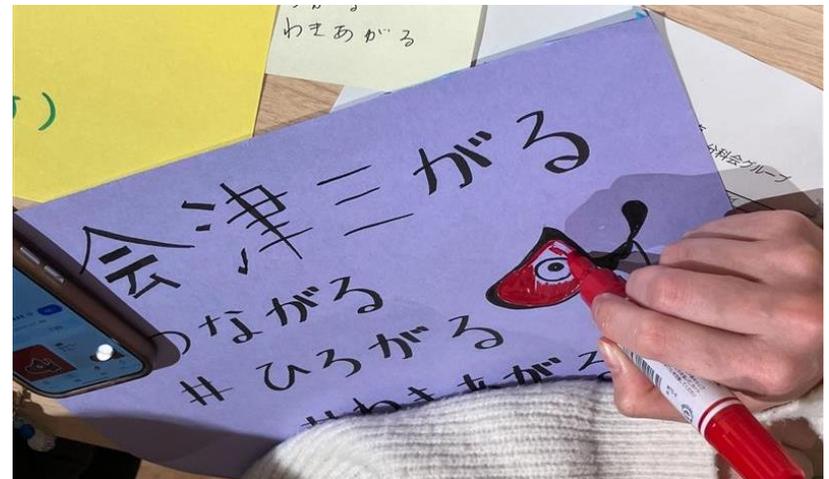
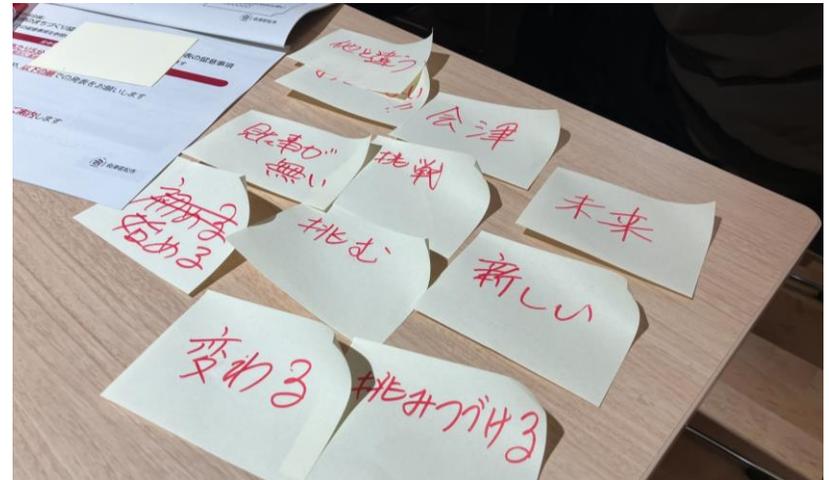
伝統

新しい

インクルーシブ

幸せ

- 2 全員参加のまちづくりに向けたかけ声となるように、班内でキーワードを組み合わせたたりしてスローガンを検討



1.新たな総合計画策定市民会議

第7回 今後10年間のまちづくり協働に向けたスローガンの検討(1/2)

分科会ごとに検討したスローガンとスローガンに込めた想いは以下のとおりです。

「つながる」というキーワードや「市民自ら」という意気込みが込められたスローガンが目立ちました

会津3がる

#つながる #ひろがる #わきあがる

- つながる:世代間のつながり、伝統のつながり、市と市民のつながり
- ひろがる:夢や希望、情報がいきわたり、ひろがる
- わきあがる:まちの魅力、憧れ、活力、会津ブランドがわき上がる

つながろう会津 みんなで未来を D.I.Y

- D:Dream、I:Innovation、Y:Youthful
夢を持って、革新的に、若々しく、会津を変えていく
(D:誰でも、I:一緒に、Y:やってみっぺ)
- つながろう会津:人と人とのつながり、「お互いさま」の文化を形成していく
- みんなで未来をDIY(Do It Yourself):人任せにせず、みんなでまちづくりに参加して、未来を作っていく

創しん+(プラス)

- 第7次総合計画のビジョン「温故創しん」から一歩進めて、より暮らしやすいまちへ
- 新しいものを創り出して終わりではなく、市民の暮らしに活かす、実用化を今後10年で進めていく

會津研鑽(あいづけんさん)

- 會津:會には人が集まるという意味を込めた
- 研鑽:会津には魅力がたくさんあるので、磨き上げていきたい
- アクションプランや将来像を見ると高め合うようなものが多かったので、未来に期待したい

会津幸福計画

- 会津市民全員が幸福になる総合計画になってほしい
- 様々な人の色々な考えを認め合い、支え合いながら幸福を作っていく

1.新たな総合計画策定市民会議

第7回 今後10年間のまちづくり協働に向けたスローガンの検討(2/2)

新会津の三笑い

■学びで笑い ■つながりで笑い ■進歩で笑う

- 学びで笑い: 伝統や歴史等を市民が学ぶことで地域がつながり、学びの流れが継続することで、地域が発展し、笑顔になる
- つながりで笑い: 人と人とのつながりから笑いが生まれたり、声を掛け合い、助け合うことでみんなが笑顔になる
- 進歩で笑う: スマートシティ等のテクノロジーをまちづくりに活用することで、市民が笑顔になる

さあ！！今こそ

新しい会津へ

レボリューション

- 文化・伝統によりこれまで発展してきた会津若松
- 独立した地域故に、新しいことに挑戦する風土が無かった
→ 今までの殻を破り、今後市民が一体となり「進化」、「革命」を起こす必要がある

改革は市民から

- 主役が市民なので、自分たちから行動することで、まちを好きになる
- 他人任せにしないで、どのような問題にも向き合う
- 若者が主体となって行動していく

OPEN YOUR EYE'S(会津)

- 会津には挑戦する人を後押しする環境が整っていない
- 誰かではなく、自らが挑戦する風土を作る必要がある
→ 瞑っている目を開いて、前に進むという想いを込めた(会津自体が目覚ます)

会津挑戦革命

- OPEN YOUR EYE'S同様市民全員が挑戦する必要がある
- 市に任せっきりでなく、市民自らが革命を起こし、意識を変えていく

**新たな総合計画市民会議からのご提案等を踏まえ、
次期総合計画における「基本構想」で定める
目指すべき将来の姿などの検討を進めてまいります。**

2

あいづわかまつ若者会議



2.あいづわかまつ若者会議 実施概要

市内の学校に通学する高校生・大学生などによって、若者の視点から「暮らしたいまち」、「働きたいまち」、「誇りに思えるまち」など、まちづくりに関する想いや将来の望ましい姿等について話し合いました

#	日時	会場	テーマ	参加人数
第1回	2025.8.2(土) 13時半～15時半	市役所本庁舎1階 市民ホール	会議目的の共有 委員間の円滑なコミュニケーション促進	10名
第2回	2025.10.4(土) 13時半～15時半	市役所本庁舎1階 市民ホール	若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる	9名
第3回	2025.12.20(土) 13時半～15時半	市役所本庁舎1階 市民ホール	若者と女性に選ばれるまち「会津若松」の実現に向けた取り組みを考える	4名

参加委員数(学校別・男女別内訳)

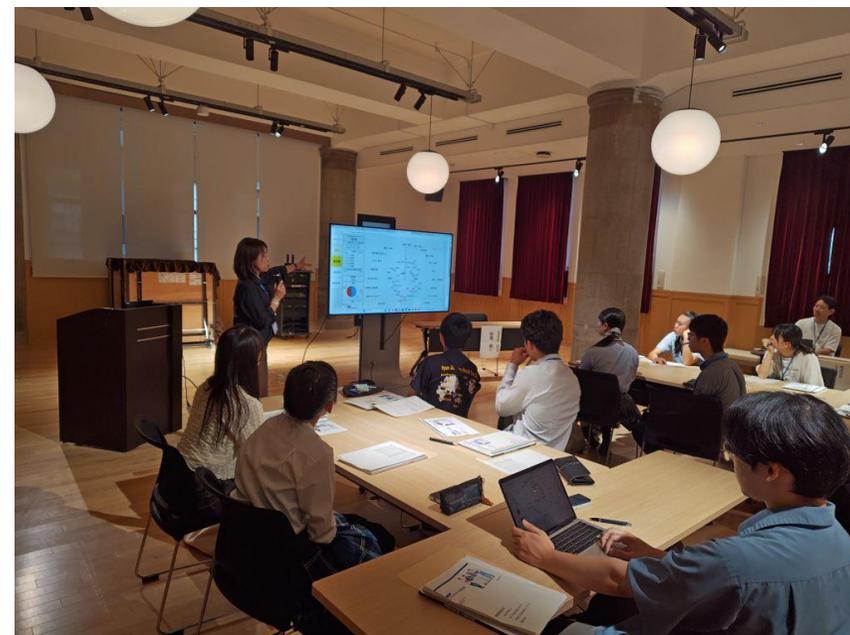
高校生	短大生	大学生	合計	男性	女性
6名	2名	6名	14名	7名	7名

2. あいづわかまつ若者会議

第1回 会議目的の共有、委員間の円滑なコミュニケーション促進

委員同士で自己紹介を行ったほか、総合計画や本事業について理解を深めました。また、地方創生2.0基本構想をもとに、「若者と女性」に選ばれるための地域づくりの必要性を説明いたしました

アジェンダ	内容
事業概要説明	<ul style="list-style-type: none"> ① 総合計画とは ② 第7次総合計画について ③ 次期総合計画の策定について
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ① アイスブレイク <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ分けゲーム ・ 他人紹介 ② 概要説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体スケジュール ・ 全体概要 ③ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生2.0基本構想について ・ 地域幸福度(Well-Being)指標について



2. あいづわかまつ若者会議

第2回 若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる

会津若松市での学び、就業、結婚、日常生活などの各ライフイベント等における希望や希望を叶えるにあたり感じている問題意識などをディスカッションしました

ライフイベント等における希望や問題意識の導出イメージ



- **進学時**
 - ITが学べる大学が市内にあり、自宅から通えるのでありがたい・・・
 - 女子は理系でなく文系を選択すべきなのかな・・・
- **就職活動**
 - 親の介護と仕事を両立したいけど・・・
 - ...
- **結婚について**
 - 「結婚しないの？」と聞かれるのが苦痛・・・
- **子どもを持つこと**
 - パートナーとの2人の時間を大切にしたい・・・
- **暮らしやすさ**
 - 今は自分の車で自由に買い物に行けるけど・・・
 - 遊び場が少ない・・・

2. あいづわかまつ若者会議

第2回 若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる

会津若松市を進学地とする理由としては、慣れ親しんだ生活環境や人づきあいなどを魅力に感じていることが窺えました。他方、行きたい学校や学びたい学部が県外にあるという意見も確認されました

学び

進学地の意向と背景

学び

しごと

結婚・子育て

定住

	魅力	問題点
会津若松市	<ul style="list-style-type: none"> 安心して過ごすことができる環境がある これまで築いてきた人間関係を継続できる 研究や専門的な学び・資格が取れる環境(大学生) 学費の負担が小さい(大学生) 	<ul style="list-style-type: none"> 男性の比率が高いため性別の多様性がない(大学生)
県内		<ul style="list-style-type: none"> 県内の大学数が少ないため、学校や学びの選択肢が少ない
県外	<ul style="list-style-type: none"> 行きたい大学、学びたい学部・学科がある イベントなどがあり楽しい生活ができる 遊びや趣味の面で都市の魅力に惹かれる 	



2. あいづわかまつ若者会議

第2回 若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる

会津若松市を就職場所とすることについては、「就職先の業種・職種が限られる」などの問題点も確認されましたが、「地元で貢献できる仕事がしたい」「暮らし慣れている場所で仕事ができる」という魅力も確認できました

しごと

就職場所の意向と背景

学び

しごと

結婚・子育て

定住

	魅力	問題点
会津若松市	<ul style="list-style-type: none"> • 地元が好きなので、地域に貢献できる仕事がしたい • 自分が暮らし慣れている場所で仕事ができる • 希望する職種の就職先がある 	<ul style="list-style-type: none"> • 就職先の業種・職種が限られる • 雪などの気候面における働きづらさ • 交通の便が悪いことによる働きづらさ
県内	<ul style="list-style-type: none"> • 就職したい企業、働きたい仕事がある 	
県外	<ul style="list-style-type: none"> • 就職したい企業、働きたい仕事がある 	
未定	<p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 場所よりも自分に合う就職先、職業に就きたい • 労働条件・処遇等の良い就職先に就きたい • 出身大学から就職しやすいところに就きたい 	



2. あいづわかまつ若者会議

第2回 若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる

結婚は個人の自由という意見があるなかでも、未婚の場合の世間の見方などを気にする意見が確認されました。本市で結婚する場合の魅力としては豊かな自然や生活環境の良さなどが挙げられました

結婚

結婚に対する考え

学び

しごと

結婚・子育て

定住

	ポジティブ	ネガティブ
結婚したい	<ul style="list-style-type: none"> 結婚に憧れがある ひとりの時より幸福度が増す 自分だけでなく、家族の安心にもつながる 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の居住地に合わせる必要がある可能性 夫婦どちらかの姓に統一される(姓が変わる)
結婚したくない		
まだわからない	<ul style="list-style-type: none"> 個人の自由なのでしてもしなくても構わない 幸せになるための手段の一つ 税制、社会保険等のメリットを享受できる 	<ul style="list-style-type: none"> 既婚者と未婚者に対する世間の見方が(既婚者のほうが良く見られる)異なる

本市で「結婚」する場合の魅力と問題点

魅力	問題点
<ul style="list-style-type: none"> 自然が豊か 治安が良い 住宅など生活環境が良い 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の受診がしづらい 遊ぶ場所が少ない 結婚式場が少ない



2. あいづわかまつ若者会議

第2回 若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる

子どもを持つことによって幸福度が増すという意見がある一方で、経済的な負担や自身のキャリアに与える影響などを不安視する意見も確認されました。なお、子供を持ちたくないとの意見はありませんでした

子育て 子どもを持つことに対する考え

学び

しごと

結婚・子育て

定住

	ポジティブ	ネガティブ
子どもを持ちたい	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長を見ることが好き 人と関わることが好き 人生が豊かになる 	<ul style="list-style-type: none"> お金がかかる
持ちたくない		
まだわからない	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが好き 家族や親せきを喜ばせたい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの将来に対する不安(世の中への不安) 働くことを諦めなければならぬ可能性がある

本市で「子どもを持つ」場合の魅力と問題点

魅力	問題点
<ul style="list-style-type: none"> 家族や知人・友人に悩みを相談ができる 豊かな自然や歴史・文化 事件や事故が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代向けの施設や子どもの遊び場が少ない 進路の選択肢が限定的 交通の便が悪いため、送迎などの負担が大きい



2. あいづわかまつ若者会議

第2回 若者と女性に選ばれるまちについて考えてみる

会津若松市に定住する場合の魅力は、慣れ親しんだ環境・人間関係などが挙げられました。一方で職業の選択肢が少ないことや交通アクセスの悪さを懸念する意見が確認されました

定住

定住の場所と背景

学び

しごと

結婚・子育て

定住

	魅力	問題点
会津若松市に住みたい	<ul style="list-style-type: none"> 親や家族の近くに住みたい 働く場所、やりたい仕事がある 豊かな自然があり、都会とは異なるレジャーがある 地元だから人間関係に困らない 魅力的な人が多い 地域の文化に慣れている(新たな文化への適応が不要) 災害が少なく、豊かな自然がある 幅広い年代や地域との交流が盛ん 美味しい飲食店が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 給料が低い 仕事の選択肢が少ない、希望する仕事がない 市外・県外への交通アクセスが悪い 交友関係を広げられるか不安(市外出身者)
会津若松市に住みたくない		
将来どこに住むか未定	<ul style="list-style-type: none"> 家族の近くに住むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の趣味趣向にあった娯楽施設がない 雪や虫などの生活環境



2. あいづわかまつ若者会議

第3回 若者と女性に選ばれるまち「会津若松」の実現に向けた取り組みを考える

第2回で検討したライフイベントごと「問題点の解決」や「魅力をさらに高める」ためには何が必要か、そのために私たちができることを検討しました

	問題/魅力	問題の解決等に必要なこと	私たちにできること
学び	学習スペースが少ない	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業が主体となって学習スペースを設ける取り組み(既存取組の継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは既存施設を積極的に使う - 学生が進んで活用することで継続的な取り組みにつなげる
	地域教育・生涯学習の魅力をさらに高める	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業や、工業を通じた地域との交流機会 ● 多世代交流の中で、課題を解決したり、話し合いなどを行う場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 校外学習を継続し、積極的に参加する ● 自分たちが様々な学習の場に足を運ぶ
しごと	就職先が限られる	<ul style="list-style-type: none"> ● サテライトオフィスの活用や、多様な働き方の推進によって大企業を誘致をする 	<ul style="list-style-type: none"> ● あいづっ子、会津人の良き印象を継承する
結婚	遊ぶ場所が少なく出会いの場が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ● マッチングアプリや結婚支援等の出会いの手段・環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記のような出会いの手段・支援を積極的に利用する
子育て	医療機関の混雑によって待ち時間が長い	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインによる診察・処方の推奨 ● 薬の処方などを簡便にする制度・仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ● かかりつけ医を原則利用し、適切な受診を心掛ける
定住	転入・移住者における人間関係・交友関係構築の不安	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティに参加するきっかけ作り ● 交友を目的としたイベントの実施・周知 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のイベントへ積極的に参加する

2. あいづわかまつ若者会議

第3回 若者と女性に選ばれるまち「会津若松」の実現に向けた取り組みを考える

第3回会議では検討・ディスカッションの内容をイラストや図でリアルタイムに記録・可視化する「グラフィックレコーディング」の手法を導入しました

2025.12.20 (Sat) 第3回あいづわかまつ若者会議 ~ 第3回のまとめ ~

定住

- Q. 地域に溶けこむ場所、イベントをつくる
- ・コロナ禍で途絶えてしまった人もお祭りなどで戻れるのではないかな

学び

- Q. 学習スペースが少ない
- ・学習スペースに足を運ぶ
- ・おまほ銀行で学習スペースをイベント的に用意し下さった

こと

- Q. 会津での仕事の業種が限られる
- ・大きい企業のサテライトオフィスを広げて頂いて様々な仕事を選べる
- ・多様な働き方が出来る
- ・会津の人のイメージを良くする

子育て

- Q. 病院の混雑
- ・かかりつけ医を利用
- ・AI診断の活用
- ・薬局でのれいびい品を増やす

結婚

- Q. 出会いの場や広流の場が少ない (マッチングアプリなど利用)
- ・医療機関の受診がしづらい
- ・アクセスしづらさを感じる
- ・医療機関の受診のしやすさ = 住アランを考えられる

交友関係 (世代問わず) つながり、広がりをもつ。目的としたイベントに参加



「あいづ」を遊びつくす!!



積極的に参加しよう!!



出会いの場を知ろう!! (23777)



当事者意識を持ってまちづくりに参加しよう

by. みらいくる (@mirai_kuru)

**あいづわかまつ若者会議からのご意見等を参考に、
人口減少対策をはじめとする次期総合計画における
重点的取組の検討を進めてまいります。**

3

子育て世代ワークショップ



3.子育て世代ワークショップ 実施概要

市内在住または通勤・通学し、18歳未満の子どもを子育てしている30～40歳代によって、子育てしやすいまちの実現に向けた取り組みなどを検討しました

#	日時	会場	テーマ	参加人数
第1回	2025.8.3(日) 10時～12時	市役所本庁舎1階 市民ホール	会議目的の共有 委員間の円滑なコミュニケーション促進	13名
第2回	2025.10.4(土) 10時～12時	市役所本庁舎1階 市民ホール	子育てフェーズ別の悩み、問題意識を把握する	9名
第3回	2026.1.17(土) 10時～12時	市役所本庁舎1階 多目的スペース	会津若松での子育ての充実に向けた取り組みを考 える	4名

参加委員数(年代別・男女別内訳)

30歳代	40歳代	合計
9名	4名	13名

男性	女性
9名	4名

3.子育て世代ワークショップ

第1回 会議目的の共有、委員間の円滑なコミュニケーション促進(1/2)

委員同士で自己紹介を行ったほか、総合計画や本事業について理解を深めました。また、会津若松市の「暮らしやすさ」と「暮らしにくさ」についてディスカッションしました

アジェンダ	内容
事業概要説明	<ul style="list-style-type: none"> ① 総合計画とは ② 第7次総合計画について ③ 次期総合計画の策定について
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ① アイスブレイク <ul style="list-style-type: none"> - グループ分けゲーム - 他人紹介 ② 概要説明 <ul style="list-style-type: none"> - 全体スケジュール - 全体概要 ③ その他 <ul style="list-style-type: none"> - 地方創生2.0基本構想について - 会津若松市の人口動向について - 会津若松市の市民意識調査結果について ④ 会津若松市の「暮らしやすさ」に関するディスカッション



次ページ参照

3.子育て世代ワークショップ

第1回 会議目的の共有、委員間の円滑なコミュニケーション促進(2/2)

会津若松市での暮らしについては、生活利便施設の充実など「暮らしやすさ」に関する意見が多く確認されました。一方で行政からの情報入手のしづらさなどを一部指摘する意見もありました

会津若松市の「暮らしやすさ」と「暮らしにくさ」(一部抜粋)

暮らしやすさ

- 災害が少ないため安心して暮らすことができる
- 医療へのアクセスがしやすい
 - 大きな病院もあるし、様々な診療科の病院が充実
- 意外と何でも揃っているため暮らしやすい
 - 病院や美容室も多い
- 子どもや若者が遊ぶことができる場所もそれなりにある
 - 広い公園があり、遊びに連れていくことができる
 - 公民館で地域の高齢者が昔あそびを教えてくれる
- 公共交通などの移動手段も整っている
- 生活環境が良い
 - ごみなどが落ちておらず、まちがきれい
- 地域コミュニティが形成されており、暮らしやすい
 - 近所の方が野菜などを分けてくれる
 - 地域で子どもを見守っている感覚がある

暮らしにくさ

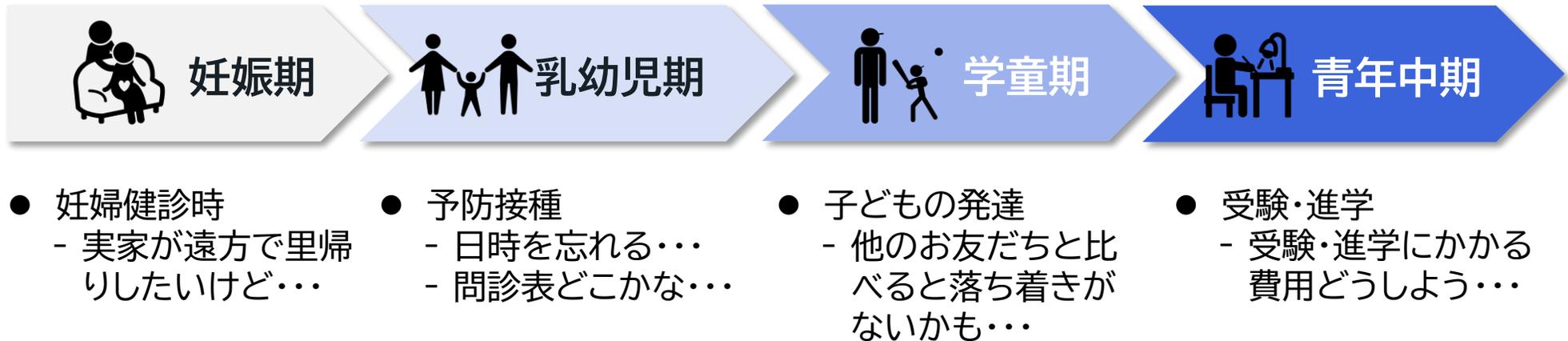
- イベントや行事などの情報の入手がしづらい
 - 市のホームページの情報が点在して見づらい
- 病児保育の使い勝手が悪い
- 子どもの医療費補助が不十分
- ファミリーサポートの使い勝手が悪い
 - 学童に通わない年齢になると、遊べる場所がない
 - 夏と冬は外で遊ぶことが難しく、遊びに行く場所がない
- 小さい子の遊び場はあるが、小・中学生の居場所がない
 - 学童に通わない年齢になると、遊べる場所がない
 - 夏と冬は外で遊ぶことが難しく、遊びに行く場所がない

3.子育て世代ワークショップ

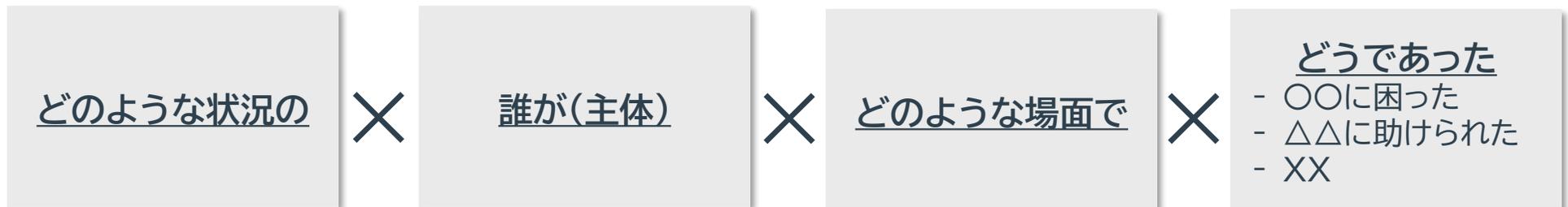
第2回 子育てフェーズ別の悩み、問題意識を把握する

妊娠期、乳幼児期、学童期、青年中期の各子育てフェーズにおける助けられたこと、困ったことについて、会津若松市に住む子育て世代の皆様が、子育ての当事者としてディスカッションをしました

子育てフェーズと具体的な悩みの導出イメージ



ディスカッションのイメージ



3.子育て世代ワークショップ

第2回 子育てフェーズ別の悩み、問題意識を把握する

本市の出産等に関する支援事業に助けられたとの意見がある一方で、事業に関する情報入手のしづらさなどの問題点が指摘されました

妊娠期

助けられたこと・困ったこと

妊娠期

乳幼児期

学童期

青年中期

	助けられたこと	困ったこと
生活のやりくり (経済面含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族が買い物を代わってくれた ● 子育てヘルパーが買い物などを手伝ってくれた ● 検診費用が毎回無料だった ● パートナーの妊娠時、職場で早く帰れるよう周りに配慮してもらえた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てヘルパーの案内が探しにくかった ● 産婦人科の数が少なく、待ち時間が長い ● パートナーの体調が優れない際などに、仕事を休むハードルが高く苦勞した ● 夜間はファミリーサポートの利用ができない ● 自営業のため、パートナー妊娠中は営業時間を短縮しなければならなかった
移動時	<ul style="list-style-type: none"> ● 陣痛タクシーを利用することにより、家族のサポートがなくても病院まで移動できた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陣痛タクシーがサービスを停止したことで、移動に苦勞した
精神的に不安なとき	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援センターの従業者と話すことで、気分転換になった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 親族が遠方で周りに頼れる人がいなかった
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 第一子を支援センターが見てくれたため、子どもを不安にさせずに済んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子宮頸がん検診のお知らせの案内がなく、希望する場合は自ら問い合わせる必要があった ● 地域における子育てサポート内容が一元化されておらず、情報収集で苦勞した

3.子育て世代ワークショップ

第2回 子育てフェーズ別の悩み、問題意識を把握する

乳幼児期についても本市の子育て支援事業に助けられた経験がある参加者が多いことがわかりました。困ったことでは、男性の育児参加が理解されない職場風土や病児保育の不足などが挙げられました

乳幼児期

助けられたこと・困ったこと

妊娠期

乳幼児期

学童期

青年中期

	助けられたこと	困ったこと
生活のやりくり (経済面含む)	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害の疑いがある子どもへの支援制度の案内が早かった ホームスタート(家庭訪問型子育て支援)利用による育児や家事、移動の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 男性の育児参加が理解されない職場風土 病気のときファミリーサポートが利用できない
入園時	<ul style="list-style-type: none"> 入園前の園児同士の交流(プレ幼稚園制度) 	<ul style="list-style-type: none"> 入園に関する手続きがわかりづらい 入園の審査が厳しい(自営業)
精神的に不安なとき	<ul style="list-style-type: none"> 保健師に子育て相談ができる機会があった 実母のサポートによって安心できた 子育て支援センターでリラックスできた 	<ul style="list-style-type: none"> 病気や怪我を気軽に相談できる場所がない 仕事と子育てを両立させようと努力しても子どもに強く当たってしまうことがあった
子どもの世話	<ul style="list-style-type: none"> 會津稽古堂は親子で利用できる上、地域のコミュニティ等もあり、交流の場となっている 子育て支援センターが未就学児の第一子の世話をしてくれて助かった 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊べる場所が少ない 子どもが病気の際の預け先が見つからない(数が足りず、予約できない) 習い事の送迎

3.子育て世代ワークショップ

第2回 子育てフェーズ別の悩み、問題意識を把握する

放課後の子どもの居場所については、「充実している」「不足している」の対照的な意見が確認されており、児童の学年・年齢や地区によって状況が異なる可能性が窺えました

学童期

助けられたこと・困ったこと

妊娠期

乳幼児期

学童期

青年中期

	助けられたこと	困ったこと
生活のやりくり (経済面含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 法改正などによって子育てのために(子どもの行事など)仕事を休みやすくなった ● LINEの子どもに関するお知らせや連絡が便利 ● 子どもが成長し、家事を手伝ってくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の正規雇用での産後再就職が難しい ● 子どもに習い事などの送迎
子どもが病気	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕事を休みづらい雰囲気があった(男性の育児やワーク・ライフ・バランスへの理解不足)
自分の体調不良	<ul style="list-style-type: none"> ● ファミリーサポートによる子どもの送迎や買い物などの支援 	—
子どもの世話	<ul style="list-style-type: none"> ● こどもクラブや放課後デイサービスなど放課後の預け先が充実 ● 地域の方と交流しながら楽しむことができる行仁っ子1455の活動 ● 特別支援学級が充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学童以外の子供の預け先が不足 ● 特別支援学級の教員が未配置 ● 子どもの登下校の確認ができない不安 ● 安心して子供を預けることができる場所が少ない

3.子育て世代ワークショップ

第2回 子育てフェーズ別の悩み、問題意識を把握する

青年中期においては教育費などお金に関することや、子どもの教育環境や進路に関する困りごとや不安などが確認されました

青年中期

助けられたこと・困ったこと

妊娠期

乳幼児期

学童期

青年中期

	助けられたこと	困ったこと
生活のやりくり (経済面含む)	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て・教育に必要な資金計画 ● 子どもの進学に係る経済的な負担が大きい
子どもの進学	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの進路・生き方について第三者と話し合う機会がない ● あらゆる子ども(発達状況等)に応じた学習環境が不足
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 休日の過ごし方として行政等が企画するイベント等への参加があったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館以外に子どもが受験勉強をする場所がない ● 親にとって高校生の子どものお弁当作りの負担 ● 親の介護と子育ての両立に関して、相談できる場所がない

3.子育て世代ワークショップ

第3回 会津若松での子育ての充実に向けた取り組みを考える

第2回で話し合った悩み、課題を踏まえて、課題を乗り越えることができたポイントや乗り越えるために必要だと思うこと、また子育て経験者だからこそ、他者への支援としてできることを検討しました

子育ての充実に向けて「必要だと思うこと」・「私たちができること」(一部抜粋)

	妊娠期	乳幼児期	学童期	青年中期
必要だと思うこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 陣痛時の送迎サービス ● 夫婦以外の人(親族、職場、友人等)に妊娠中であることを知ってもらう ● メンタル面のケア ● 産後支援の充実(カタログギフト等) ● 市による情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夫婦間の得意不得意を理解した上での、役割分担 ● 育児に責任を持つのは大切だが、頑張りすぎない ● 子どもと遊ぶ場所(現状遊具がない、雨天時の遊び場がない) ● 子ども専用トイレの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが放課後過ごすことができる施設の充実 ● 集団登校のない地域に対して、送迎バスの整備 ● ICカードを利用して親が子供の登下校時を確認する等のデジタル施策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の体について理解するために、男女共同の性教育の場の提供 ● 子どもが反抗期の際に、子ども自身が気持ちを伝えることのできる場・機会の提供 ● 父親が育児に関わっていることを子供に示す
私たちができること	<ul style="list-style-type: none"> ● 自身が活用したサービスの情報共有 ● 同じ境遇の方との交流機会、発散の場を設ける <p>【男性視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 女性の体について理解することの重要性を他男性に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ● とにかく話を聞き、共感する ● ママ友間の交流機会を設ける <p>【男性視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 母親の大変さを理解することの大切さを他男性に伝える 	—	—

3.子育て世代ワークショップ

第3回 会津若松での子育ての充実に向けた取り組みを考える

第3回ワークショップでは検討・ディスカッションの内容をイラストや図でリアルタイムに記録・可視化する「グラフィックレコーディング」の手法を導入しました

2026.1.17
会津若松市
10:00~
79目的ホール

第3回 子育て世代ワークショップ

会津若松での子育ての充実に向けた 取り組みを考える



乗り越えられたポイント・必要な点

- リラックス出来る環境
- 女性の身体・周囲の理解 (親・会社・本人)
- 健診が無料

女王女辰期

- リラックス出来る環境
- 女性の身体・周囲の理解 (親・会社・本人)
- 健診が無料



乳幼児期

- 屋内の遊び場が無料
- がんばらない
- オムリ替えマ...ッポ
- かある助かった



学童期

- 放課後 とう過ぎすか問題
- 施設の老朽化
- リモートカメラ GPSで見守り



青年中期

- 反抗期宣言がある(親子共に)
- 自己肯定感の育て方 (根、この教育が大切)



あったらいいな、こうしたいよ

- 陣痛タクシーがあるといい
- 周りを頼れるシステム (ファミポ)
- 妊娠が分かったら支援 賢い 欲しい (情報、団体)
- 支援センターでの利用でメンタルケア
- 妊娠・出産に関して 体系的な支援

- 夫婦での話し合い (役割分担 当事者意識)
- 乳幼児が連れて行ける施設
- トイレトレーニングが出来る施設

- 送迎バスか あたらいいな
- 登下校の ICT化

- 保健体育を 広い年代・男も女も やって学んだ方がいい
- 女性の身体への理解を 男と共に深める
- 男性も育児に関わりやすい 会社や環境も...!!

**子育て世代ワークショップからのご意見等を参考に、
人口減少対策をはじめとする次期総合計画における
重点的取組の検討を進めてまいります。**

4

地区別ワークショップ



4.地区別ワークショップ 実施概要

下記の3地区に在住の皆さまにより、各地区の現状や課題、特徴を共有し合い、これからの地域コミュニティのあり方について議論しました

テーマ

これからの地域コミュニティのあり方について
考えましょう

ワークショップの進め方

① 地区の現状を知る(地域カルテ活用)



② 気づきや問題意識などを共有する



③ 地区の問題点を整理し、「何が必要か」、「地域や個人で何ができるか」を考える

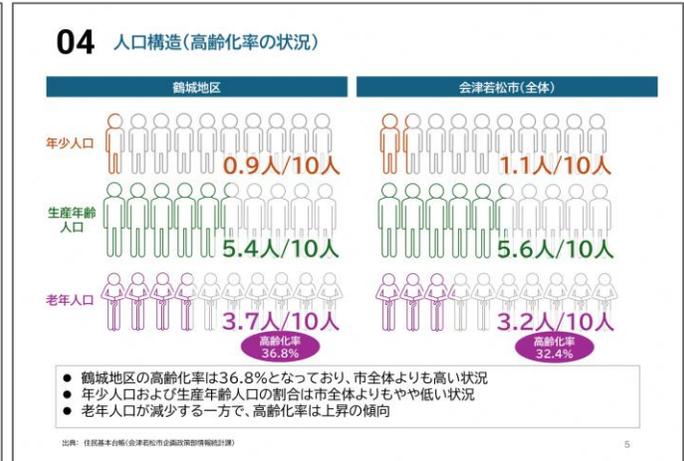
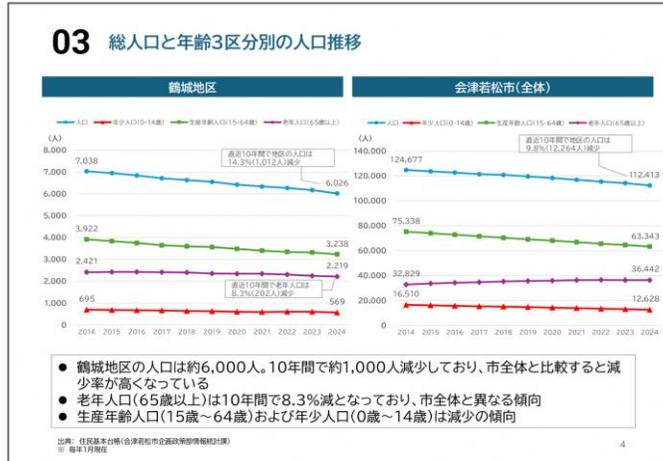
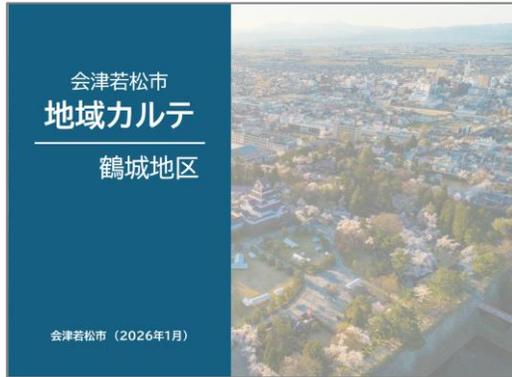


地区	日時	会場	参加人数
神指	2025.12.21(日) 14時~16時	中央公民館 神指分館	15名
門田	2025.12.23(火) 17時~19時	南公民館 1階会議室	5名
鶴城	2026.1.18(日) 14時~16時	市役所本庁舎 3階会議室	9名

4.地区別ワークショップ 地域カルテの活用

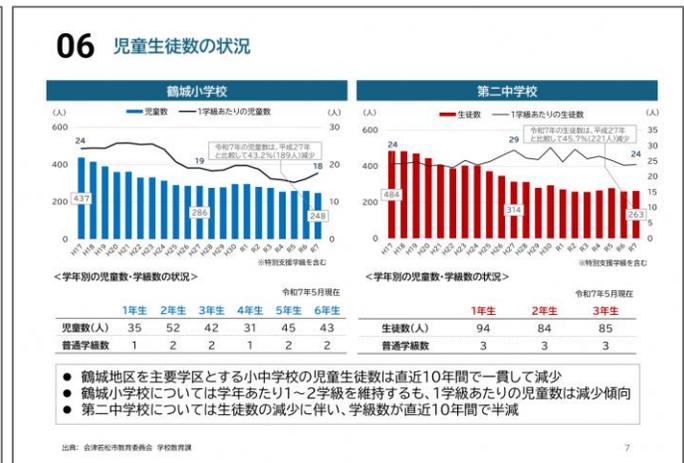
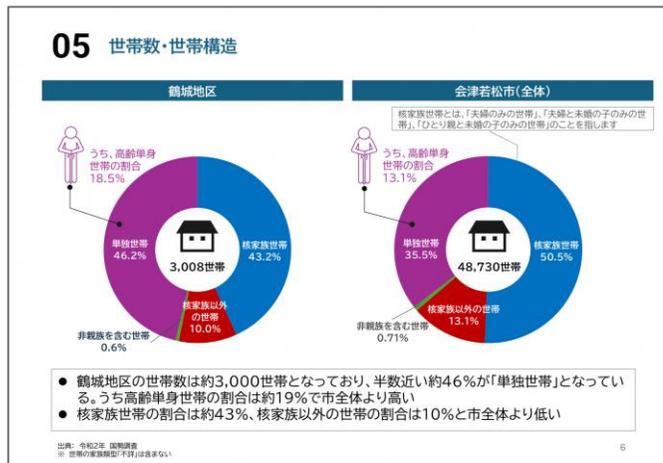
地域カルテでは、人口をはじめとした基礎的な統計情報等を地区ごとにまとめ、地区を現状を「見える化」することで各地区の現状や課題、特徴の把握に活用しました

地域カルテのイメージ



<記載項目>

- 01 地区の概要
- 02 活動・組織などの状況
- 03 総人口と年齢3区分別の人口推移
- 04 人口構造(高齢化率の状況)
- 05 世帯数・世帯構造
- 06 児童生徒数の状況
- 07 地域とのつながりの状況



4.地区別ワークショップ 検討・ディスカッションの進め方

地区の現状を確認したあと、普段の地域活動において感じている問題点(弱み)や魅力(強み)についてディスカッションし、以下の「地域コミュニティに期待される機能」として設定した4つの検討テーマごとに整理しました

検討テーマ(地域コミュニティに期待される機能)

生活支援・福祉

● 移動・交通

- ✓ 互助輸送

● 高齢者支援

- ✓ 見守り、孤立防止
- ✓ 買い物支援

● 子ども支援

- ✓ 見守り
- ✓ 交通安全

安全・安心

● 防犯・防災

- ✓ 見回り
- ✓ 避難支援、物資供給

● 生活環境

- ✓ ごみ収集
- ✓ 清掃活動

交流・文化

● 伝統文化・行事

- ✓ 祭り・伝統行事の開催
- ✓ 歴史・文化の継承

● 教育

- ✓ 生涯学習
- ✓ 地域教育

● 親睦・交流

- ✓ レクリエーション活動
- ✓ 多世代交流

行政連携

● 観光

- ✓ 観光地域づくり

● 情報伝達

- ✓ 広報紙等の配布
- ✓ 住民の要望・意見集約

● 地域活動

- ✓ 体制整備
- ✓ 財源の確保
- ✓ 多様な主体との連携

4.地区別ワークショップ 地域活動のなかで感じている問題点や魅力

神指地区では交通手段が限られることから、一部では食品アクセス(買物困難者等)の問題が指摘されました。鶴城地区では循環バスなどの公共交通が充実しているとの声も多く、地区によって差があることが窺えました

生活支援・福祉(移動・交通/高齢者福祉/子ども支援)

	問題点	魅力
神指地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通手段が限られており、買い物等の移動が困難 ● 少子化に伴い子どもを対象とした支援がなくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● デイサービスが充実している
門田地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢世帯が多く、将来的に急激な人口減少が見込まれる ● 単身高齢者の情報や役割分担もできているが、実際にとのように動いてよいかわからない 	—
鶴城地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環バスは、目的地まで行くのに時間がかかる ● 運連免許返納後の移動は大変 ● こども達は通学のバスの本数が少なく苦労している ● 高齢者支援はボランティアによる限定的な取り組みとなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環バス等、交通インフラは充実している ● 車移動中心であるが、駐車場も多くあり困ることはない ● 支援が必要な単独高齢者を地区内でリストアップしており、役員が見守りを担当。除雪等の支援もしており、地域内の互助活動が仕組み化されている

4.地区別ワークショップ 地域活動のなかで感じている問題点や魅力

地域における除雪等の活動については、門田地区で担い手不足の声が確認されました。神指地区や鶴城地区では除雪や清掃活動などの活動が地域で機能しているとのことでしたが、参加者がいつも決まったメンバーであることなどの問題も確認されました

安全・安心(防犯防災/生活環境)

	問題点	魅力
神指地区	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域一体となって除雪作業を行うことができる
門田地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同浄化槽の老朽化 ● ゴミ拾いへの参加者が減少している ● 高齢化により今後地域の除雪作業を担う人がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会によっては、防災活動が活発
鶴城地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃活動に参加する住民は決まったメンバーで限定的 ● 観光地や駐輪場などのごみの放置が目立つ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防犯カメラの設置など他地区に比べて進んでいる ● 鶴ヶ城のごみ拾いなど、環境美化推進協議会が機能している ● 地元企業や中学生も清掃活動を実施しており、ゴミはそこまで目立たない

4.地区別ワークショップ 地域活動のなかで感じている問題点や魅力

住民同士、地域との繋がりの希薄化は、3地区共通の問題点として指摘されました。要因としては人口減少・少子化等に伴う交流機会の減少や、若い世代を中心とした地域活動に対する考え方の変化などが挙げられました。一方で各地区で魅力あるイベント開催を強化する動きも確認されました

交流・文化(伝統文化・行事/教育/親睦・交流)

	問題点	魅力
神指地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民との繋がりが年々減少 ● 人口減少に伴い、行事が減少 ● 移住してきた人たちとの関係構築に苦戦 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区によっては、毎年イベントを開催し、世代間の交流を行っている
門田地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化による各種イベントの減少、後継者の不足 ● 転勤で移住してきた家族との関係性構築が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動公園等の文化活動が行える場所が多い ● 地区によっては、新たな会合の実施により、地域間の交流が実施できている
鶴城地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区内の行事に現役世代が、参加してくれない ● 地域活動に対する考え方のジェネレーションギャップが存在 ● 歴史資料センターまなべこや鶴ヶ城の施設等の老朽化 ● 交流の場として機能していた「こども会」や「老人会」が人数不足により衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会では花見・BBQ・芋煮会等、多くの活動を実施

4.地区別ワークショップ 地域活動のなかで感じている問題点や魅力

町内会の役員など各地区における地域活動の担い手不足の問題が多く確認されました。これまでの地域活動の内容にとらわれすぎることやライフスタイルの変化に対応できていないことなどが、住民間や地区内の各組織間の繋がり不足に影響していることが窺えました

行政連携(観光/情報伝達/地域活動)

	問題点	魅力
神指地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の支援が得られないため、観光資源の維持が困難 ● 地域活動の内容が固定化されていることで、参加することの意義が薄れている 	—
門田地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会加入に対する意識変化(戸建でも断られる) ● 高齢化により除雪を行えない地区に対して、行政連携が行えていない 	—
鶴城地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区の関係団体役員の後継者不足 ● 役員になると後継者を見つけないとやめられない慣例(輪番制の導入も難しい) ● 現役世代における地域活動と仕事・家庭の両立の難しさ(平日夜間の会合でも、残業等で出席できないことも) ● 地区内の関係団体・組織・委員間での横のつながりがなく、情報連携が上手くできていない ● 町内会や子ども会、青年会など、それぞれ別々に活動しており、各組織の連携が上手くできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光地の駐車場は充実(路上駐車もない) ● きれいな街並み

4.地区別ワークショップ 今後地域で取り組んでみたいこと・必要なしくみ

神指地区

テーマ	取り組んでみたいこと・必要なこと
生活支援・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通手段の拡充(ex.コミュニティバス等) ● 単身高齢世帯を一人にしないための、イベント、支援の実施
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域一体となった定期的な防災訓練の実施
交流・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区別対抗運動会の開催 ● 各地域の観光資源を巡る散歩活動(既に実施しているが、範囲を拡大) ● 道の駅のような複合施設の創設
行政連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い世代が気軽に参加できる活動の拡充 ● 観光資源保護に向けた行政による助成



4.地区別ワークショップ 今後地域で取り組んでみたいこと・必要なしくみ

門田地区

テーマ	取り組んでみたいこと・必要なこと
生活支援・福祉	—
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域一体となった防災訓練の実施 ● 防雪灯の設置
交流・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会への参加率向上に繋がるイベントや施策 ● あいさつ運動の活発化 ● 子どもが中心となった行事の開催 ● 運動公園を利用した健康増進活動
行政連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区全体となり除雪作業を行うための、ルール作り



4.地区別ワークショップ 今後地域で取り組んでみたいこと・必要なしくみ

鶴城地区

テーマ	取り組んでみたいこと・必要なこと
生活支援・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● 免許返納者への移動交通支援の周知(タクシーの割引など)
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 現役世代が清掃活動に参加するきっかけづくり・周知
交流・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動のやりがい等ポジティブな情報の発信 ● 町内会・ご近所付き合いを大切にするという意識付け ● 花火大会などのこどものいる世代の市民が集まるイベントを継続実施 ● 現役世代が参加するきっかけ作りのための、地域行事の開催・実施状況の住民への周知
行政連携	<ul style="list-style-type: none"> ● まなべこ・鶴ヶ城周辺の施設の整備・建て直しの実施 ● 地域活動への参加に対する勤め先への理解促進 ● 現役世代が参加しやすいようにオンラインでの会合の実施 ● 観光客に地元の商店で購入してもらう仕組みづくり ● 現役世代を巻き込んだ話し合いの実施 ● 地区全体の活動を管理・連携するための地域運営組織 ● 地域運営組織が活動するための拠点・場所づくり



地区別ワークショップにていただいたご意見等を参考に、地域コミュニティのあり方など、次期総合計画における重点的取組の検討を進めてまいります。

▶ 会津若松市総合計画審議会 今後のスケジュール

時期	審議会	議事内容等(予定)
2月15日(日)		・「これからの会津若松市を考えるタウンミーティング」の開催
3月24日(火)	第3回	・次期総合計画素案(基本構想案)等の審議 など
4月	第4回	・次期総合計画素案等の審議 など
5月	第5回	・次期総合計画素案等の審議 など
6月	第6回	・次期総合計画素案等の審議 など
	第7回	・次期総合計画素案等の審議 など
7月下旬	第8回	・パブリックコメント結果の報告 ・答申内容の決定 など
	答申	・市長への答申
9月		(市議会9月定例会議に議案提出)

これからの会津若松市を考えるタウンミーティング

参加無料 先着200名
(事前申込制)

次期総合計画の策定に向けた取組の進捗報告とともに、有識者による人口減少に関する講演、ワークショップ参加者による成果発表など、これからの会津若松市を考えるためのタウンミーティングを開催します。ぜひご参加ください。

とき

令和8年
2月15日(日)
13:30~16:15
(受付開始 13:00~)

ところ

会津大学 講堂
(一箕町大字鶴賀上居合90)

オンライン視聴可

手話通訳・託児あり(託児は予約制)

申込

申込:2月12日(木)まで
(託児は2月2日までに申込)
参加申込はこちらから→



【お問い合わせ先】企画調整課(電話39-1201)

基調講演

データで読み解く!会津若松市の人口減少 ~市民みんなで会津若松市の将来を考えよう~



【講師】株式会社ニッセイ基礎研究所
人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子 氏

東京大学経済学部卒。日本証券アナリスト協会認定アナリスト(CMA)。1995年日本生命保険相互会社入社。99年より同社シンクタンクに出向。専門分野は人口動態に関する社会の諸課題。総務省「令和7年国勢調査有識者会議」構成員等、政府・地方自治体等の人口関連施策アドバイザーを務める。エビデンスに基づく人口問題(少子化対策・地方創生・共同参画・ライフデザイン)講演実績多数。著書に『まちがいだらけの少子化対策』(金融財政事情研究会)、『未婚化する日本』(白秋社・監修)、『データで読み解く「生涯独身」社会』(宝島社新書)。

成果発表

会津若松市が目指すべき将来の姿などについて議論を進めてきたワークショップに参加した市民の皆さんが成果を報告します

【コメント】株式会社ニッセイ基礎研究所 天野 馨南子 氏
会津若松市総合計画審議会 会長 岩崎 由美子 氏
(国立大学法人福島大学 行政政策学類 教授)

